



沼津市民間支援まちづくりファンド事業
令和3年度 活動報告書

令和4年8月作成

No.	事業申請者(団体・法人・個人名)	事業名
1	夢ある人づくり塾～DSプエルト～	「ノルディックのまち沼津」を広め、シニアの健康寿命を延ばす
2	飯田 真里	育休ママ・働きたいママのためのリスタート応援セミナー
3	静岡東部ふたご・みつごの会 もっちーず	双子・三つ子を安心して産めるまちへ
4	株式会社エストレジャ	地域住民のための健康増進サポート事業
5	斉藤 珠美	やってみよう!「健康経営」
6	ほっこりら	障がい児(医療ケア児)ママの子育て支援～地域の仲間を作ろう～
7	キナリ舎	大岡団地再生プロジェクト
8	沼津の歴史と文化を耕す会	史跡の案内看板の整備
9	一般社団法人食育スタジオDreamy	食農体験プロジェクト
10	特定非営利活動法人樹木いきいきプロジェクト	にぎわい創出に貢献するイソギク植栽の試験的事業
11	障がい者のしごとを考える母の会	『母たちのスキルアップ支援』とスキルの活用
12	EN	美術でつなぐ
13	特定非営利活動法人IBA未来塾	荒廃農地を活用して野菜作りで地域を元気にする
14	株式会社tasuki	スポーツローカルメディア「ぬまスポ(仮)」の開設
15	沼津未来クリエイティブ	移住者や移住予定者のための沼津暮らし応援プロジェクト!!
16	ひととき百貨店	「人と時を紡ぐ」事業
17	命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会	杉原夫妻顕彰活動
18	沼津市手話言語条例推進協議会	ぬまづろう乳幼児支援事業の実施に向けた研修活動
19	青山 沙織	深海魚に特化した観光交流スペース「深海魚のテーマパーク」を戸田に!
20	合同会社sumica	元旅館を活用したカフェ・コワーキングスペース事業

「夢ある人づくり塾～DSプエルト～ 「ノルディックのまち沼津」を広め、 シニアの健康寿命を延ばす

計画達成度
100%

団体データー
夢ある人づくり塾～DSプエルト～
代表者:渡辺茂樹
構成人数:10名
活動歴:6年
主な活動地:サンウェル沼津
愛鷹運動公園 千本浜公園
HP:なし

事業目的

ノルディックウォークコースガイドを活用したノルディックウォークを開催し、シニアの生きがいづくり健康づくりを進め、健康寿命の延伸に貢献する。
また、コースガイドに沼津の歴史や沼津の宝を掲載して、「ノルディックのまち沼津」を広める。

現状と目標

ノルディックウォークは介護予防や自立支援の取り組みとして推奨されている。市や社協が開催する「ノルディックウォークイベント」や「ノルディックウォークサポーター養成講座」で歩き方の基本・効用・楽しさを伝えているが、ノルディックの仲間づくりや交流などによる広がりにつながらない。
ノルディックウォークコースガイドを活用したノルディックウォークを開催し、シニアの生きがいづくり健康づくりを進め、健康寿命の延伸に貢献する。
コースガイドに沼津の歴史やぬまづの宝を掲載して「ノルディックのまち沼津」を広める。

指標

1. コースガイド作成 3件
2. ウォークイベント開催 6回
3. 参加人員 15名/回×6回

活動と成果



5/11(火) かなおかの歴史を歩く
参加31名 (内サポーター11名)



5/28(金) 門池の地域遺産を巡る
参加31名 (内サポーター11名)



5/29(土) 大平石仏の里を巡る
参加31名 (内サポーター12名)



11/27(土) 千本浜の歴史を学ぶ
参加20名 (内サポーター8名)



11/30(火) 江原素六先生を学ぶ
参加27名 (内サポーター8名)

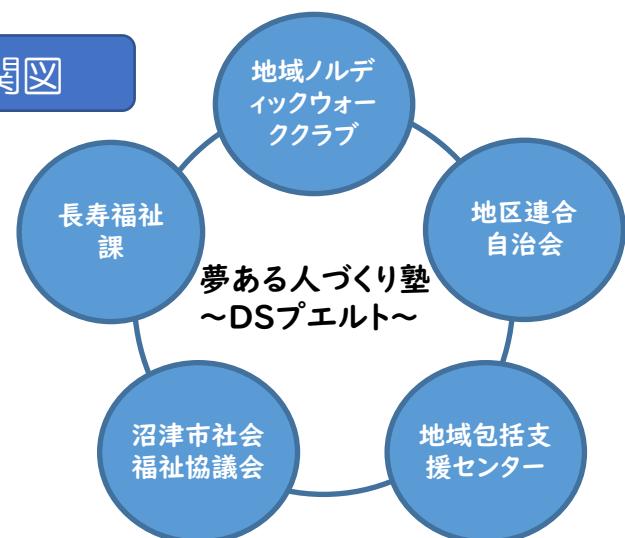


12/22(水) 故郷の町大岡を歩く
参加22名 (内サポーター8名)

振り返り課題

- 地域包括支援センターや地域ノルディックウォーククラブが主催するノルディックイベントに、積極的に参加する
- ノルディックウォークの仲間を増やし、「沼津市長寿福祉課」「沼津市社会福祉協議会」「地域包括支援センター」「地区連合自治会」及び「地域ノルディックウォーククラブ」との連携を深める
- 上記活動を通じて、シニアの生きがいづくり健康づくり活動を実践していく

相関図



2 飯田真里 育休ママ・働きたいママのためのリスタート 応援セミナー

計画達成度
85%

事業者データ
代表者：飯田真里
HP：なし
Mail: ikuben_88@yahoo.
co.jp

事業目的

産休・育休と女性たちが子どもを産んで子育てをしながらでも職場へ復帰できる環境は整いつつあります。しかし復職までのソフト面でのサポートは企業・行政共に不十分であるのが現状であり、仕事・子育て・家事の負担は女性が大きく、不安と不満を抱えて仕事をしている女性が多いのが現状です。そこで、悩みながらも仕事を楽している現役ワーママの姿を見せること、子育てによって、スキルアップできている現在の自分を認め自信をもつこと、子育てしながらも自分時間を持って自分のやりたいことをやる時間管理テクニックを身に着けることで、復職・社会復帰後の仕事と子育ての両立の準備ができるスキルアップを目的としています。

現状と目標

社会背景からも女性の社会進出、社会での活躍の期待はあるなか、自治体・企業で十分なバックアップ体制が整っておらず、事業内容は必要性を感じる。ただ、事業が広まらない、企業様にとっても優先度が低い、ママが自己投資する上でのメンタル的ハードル高く自分への投資の優先順位の低さを感じた。
私ひとりではこの活動をつづけていくことの難しさは感じるため、協力者や企業様自治体と一緒に活動していくことが必須であり、賛同して下さるかたを作ることが先だと考える。企業25社ほど訪問電話等させていただいたが、女性社員様へチラシ配布して下さった企業様は5社ほど。ハード面ではどこの企業様も努力改善されてきていると思われるがソフト面に対しては関心は薄く感じられた。

活動と成果

参加の皆様の講座内容の満足度は高く、学びの質の良さや復職前に学び事前準備すること、なぜ自分は復職したいのかの目的を明確にすることの大切さを感じ取ってもらえた。

復職前に自分の思考考え方をかえていくことでポジティブに物事を考えられるようになったことが大きいとの感想。復職のためのスキルややり方の前に考え方を
知ること、自分自身はなにを本当はしたくて、なんで仕事をするのか?など自分と
とことん向き合うことで復職する自分のイメージシミュレーションができたことで復
職への不安が小さくなったのと、不安があったとしても漠然とした不安ではなく、
何に不安を抱えていて何が問題なのかを明確にすることができたために改善策
も一緒に考えることができた。

復職に前向きになった人数3/3。3月復職1名。5月復職1名、起業1名。

9月2回講座、10月2回講座、12月1月2月は月1テーマを設けて交流会開催。



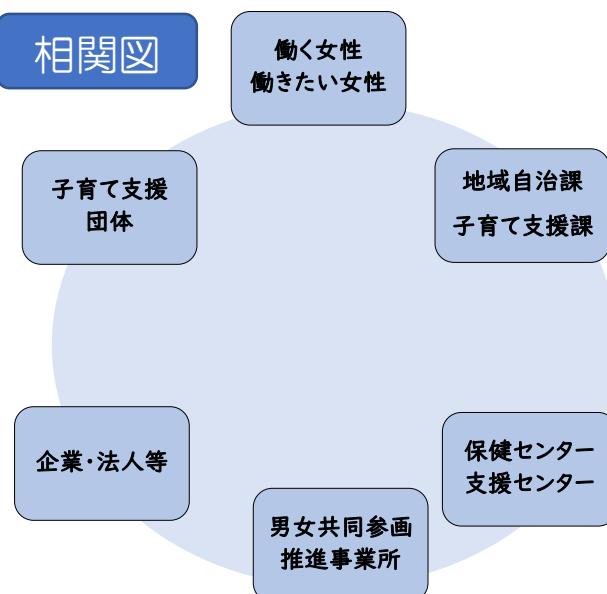
振り返り課題

元々役割意識の高い日本人であるため、家事育児の役割は女性という無意識の当たり前があると感じる。旦那様の家事育児への興味関心度も各家庭様々で、温度感を感じた。講座に旦那様と一緒に参加する内容があるとより夫婦の協力体制が整うと感じるし、夫婦でどんな家族家庭を作っていきたいかのゴールを共有していくことがなにより1番大切だと感じた。

女性たちも人に家事育児を誰かにお願いすることの罪悪感を手放すことの必要性、子供や家族のために自分の気持ちに蓋をするのではなく、人へ伝えることの勇気、職場復帰に対して相談できる窓口など、繋がり協力体制をつくって、仕組み作りが必要だと感じている。

母親が大変そうに育児家事仕事をしている姿を子供にみせることよりは母親が笑顔で楽しく毎日を過ごしている姿をみせていくことが子どもたちにとっては1番の嬉しいことであり、家族の幸せに繋がっていくと感じる。

相関図





3 静岡東部ふたご・みつごの会 もっちーず 双子・三つ子を安心して産めるまちへ

計画達成度
20%

団体・法人データ
代表者:鈴木歩美
構成人数:93名
活動歴:5年
主な活動地:沼津市内

事業目的

多胎児、つまり双子や三つ子の妊娠・出産が近年増えている。リスクの高い出産を乗り越え、過酷な育児生活を送ることとなる多胎出産。多胎妊娠は妊婦の負担が大きいものの専門の資料や相談窓口は少ない。出産後は、授乳やおむつ交換などの作業が倍以上になるほか、外出先で子どもが同時に泣き出し周囲から心無い言葉をかけられるなどの経験から子どもを連れて外出することができない母親も多にいる。これまで私たちは多胎妊婦や多胎家庭への支援の充実について行政への協力を要請してきたが、単胎妊娠に比べ数が少ないことなどが理由でいまだに支援は制度化されておらず、危機感を感じている。そのため本事業では、多胎妊婦やその家族に対してのヒアリングや相談会を実施することで不安の軽減を図り、育児本では知ることのできない多胎育児の実際について話をする機会を設けたい。出産後の家庭に対しては先輩ママがサポーターとして育児や家事のサポートに行くしくみをつくり、母親が一人きりで育児・家事を抱え込まないよう支援していく。また、継続的なつながりを作っておくことで仲間意識を感じてもらい、定期的な集まりの開催(オンラインも含む)により母親のリフレッシュの機会を設けること、防災講座等の勉強会を行うことの必要性を感じている。

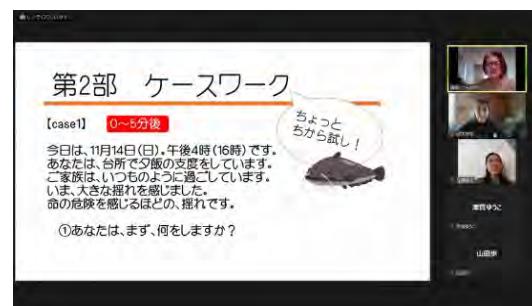
現状と目標

- コロナウイルスのまん延により、予定していた対面での活動は、もっちーず会のみとなってしまう、コンサートの開催ができなかったことを残念に思う。一か月に1組ほどのペースで多胎妊婦や多胎ママ・パパが入会している現状があるため、コロナ禍ではあるが多胎育児真ただ中の方はいる。そういった方のためにも、オンライン開催などの工夫をしながらつながりを感じられるような会である必要がある。
- プレパママ相談会を2度実施したが、他地区の保健センターや子育てサークル内で呼びかけたにもかかわらず2名しか参加者が居なかったため、ニーズがないわけではないが、病院等での呼びかけ等、多胎妊婦にこの活動の存在を知ってもらう工夫が必要であったように感じる。
- 1年間、ファンド事業として行ってきたが、やはり収入等を考える前に、「ママ達の心の救い」となっていることが一番大切であることを感じた。今後はイベント等は無理に開催せず、「困ったら誰かが助けてくれる」「もっちーずのママ達がいるから安心」と思ってもらえるような会であるための努力をしたいと思う。



活動と成果

- **プレパママ講座**: 2回実施 (うち1回はメッセージでの相談会) 2名参加
→ パパママ講座に参加した妊婦さんより安心して出産できたという反応がいただけた。
- **サポーター派遣**: 1回実施 サポート事業会員数: 15名 うちサポーター4名、利用者11名
→ 利用者の要請がなかったため通院や予防接種への付き添いは実施できなかったが、サポーター事業に会員登録してくれたのはサポートが必要なママ11名。サポートを実際に利用しなくても、万が一の際に頼める先があることで安心するというママの声が多かった。実際にサポーターを利用したのは1名だけだったが、産後1か月で疲弊していたので話し相手になってくれただけで嬉しいと言っていた。双子の授乳や寝かしつけの手伝いを行った。
- **防災講座**: 1回実施 7名参加
→ 防災の知識をつけたことでより子育て世代のネットワークの構築が必要であることを発信し、つながりを続けていくことの大切さをメンバーの皆で再確認できた。
- **もっちーず会**: 1回実施 9家族参加

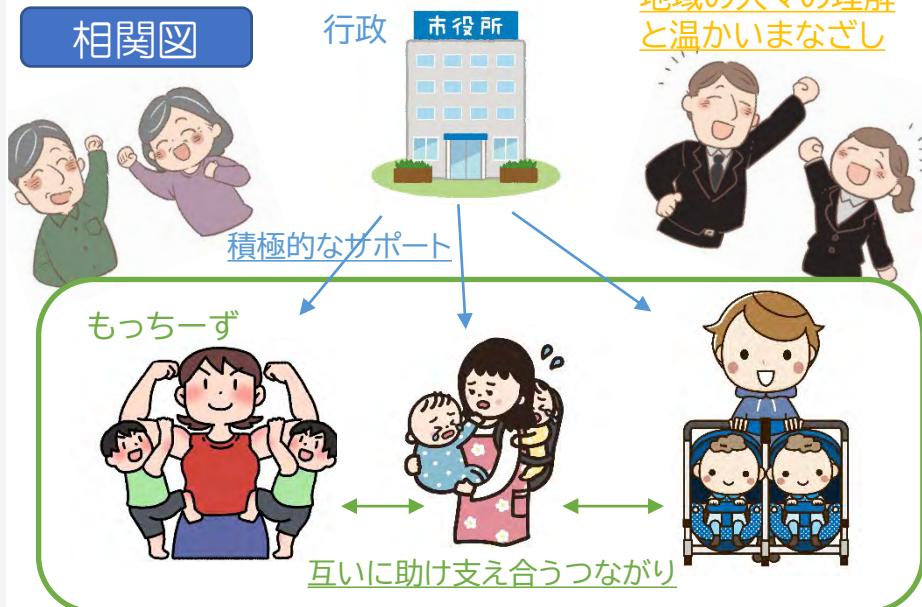


振返り課題

今回まちづくりファンド事業で資金をいただいて活動をしたが、もっちーずのメンバーはやはり多胎児の母であることがまず大前提としてあるため、活動に積極的に参加できるメンバーがとても少ないこと、また育児に手いっぱい防災などの講座に参加する余裕もないママが多いという現実気がついた。そのため、今後は事業をサポート事業にシフトし、資金を必要とする大きな活動(講座・イベント等)は廃止し、よりママ達の心のつながりとして団体が機能するようにしていきたい。

右の図のような、行政からの積極的なサポートを行ってもらいながら、もっちーずの中では常にパパやママの心のよりどころとなるようなつながりづくりをしていき、地域の方々の多胎育児に対する理解と温かい応援・まなざしのあるような地域になることを願っている。

関連図





4 株式会社エストレジャ(みつばち薬局) 地域住民のための健康サポート事業

計画達成度
100%

団体・法人データ
代表者：星 瑞江
構成人数7名
活動歴2年
主な活動地：プラサヴェルデ、
みつばち薬局
HP：<https://mitsu8-yakkyoku.com/>
Mail mitsu8@cathrne.jp

事業目的

近年高齢化社会を迎えた中で、多くの方々が自身の健康について高い関心を持っている。しかし、自発的に生活習慣の改善を行っている方は多いものの、正確な情報に基づく対策ではないケースが多い。

そこで、本事業では、地域住民の方々が気軽に健康相談ができる場として、当薬局内に「よろず健康相談窓口」を設置し、自身の健康等について不安を抱える方々に対して、専門家の立場から適切な助言や支援を行い、健康に関する正しい知識と意識啓発の普及を図る。

また、健康運動指導士による「健康運動教室」を開催し、効果的な運動方法を体験型の講義により啓発することで、地域住民の生活習慣病の予防、健康水準の保持・増進を図る。

併せて、DVや性被害により緊急避妊薬が必要な方へ薬を提供する体制の整備も実施する。

現状と目標

当薬局を利用されている患者様から、健康に関する不安や悩みについて相談を受けることが多く、地域においても潜在的に健康不安を抱える方々が多いのではないかと感じている。

厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」においても、「門前から地域へ」という方向性が示されており、薬局には、患者様へ処方薬について説明し、ご質問にお答えし、薬を手渡すといった従来の機能に加え、地域包括ケアシステムの一員として健康相談に対応するなど、地域住民の健康を総合的にサポートしていくことが求められている。

これまで、当薬局では処方する薬に関する相談だけでなく、一般的な健康相談にも応じていたが、あらためて「よろず健康相談窓口」を設置・周知し、患者様が気軽に薬局に立ち寄ることができる体制の整備を行うとともに、体験型の健康運動教室を市内で開催する。

また、市内には緊急避妊薬が提供できる薬局が少ないことから、早急に提供体制を整備する。



活動と成果

令和3年4月 よろず健康相談窓口設置

薬のことだけでなく、健康相談にも対応している窓口があることを周知等したことで、来局頻度が増加し、これまで以上に患者様の状態を把握できるようになり、地域住民の健康増進に寄与することができた。

令和3年9月23日 健康運動教室開催(日本健康運動指導士会講師招聘)

運動教室はプラサヴェルデで開催し、63名が参加した。

普段運動不足の方でも気軽に参加できるよう、椅子を活用した運動方法を取り入れ、参加者には運動前に自身のからだの状況を把握していただいた後、健康運動指導士から効果的な運動の仕方を実演形式で説明した。

参加者からは、「今まで行ってきた運動が効果的でなく、自分のからだの状況を把握してから運動することがより効果的な運動につながることが分かった。参加して非常に良かった。」との感想が寄せられた。

また、運動教室参加者の来局頻度が増加し、よろず健康相談窓口を利用することで相乗効果が得られた。

令和3年4月 緊急避妊薬提供の体制整備

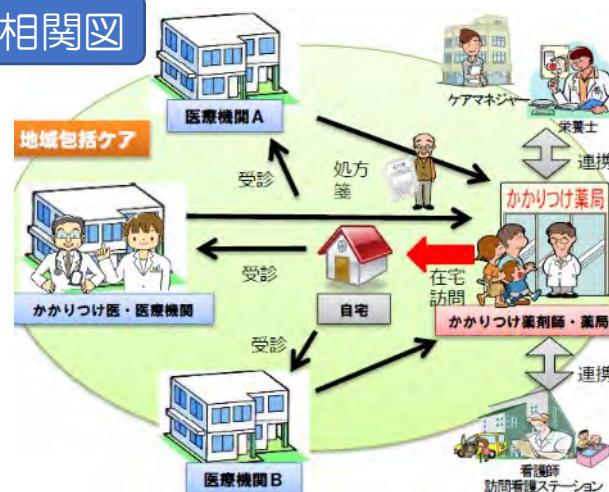
提供実績 5件(令和4年3月末時点)



振り返り課題

- 健康相談窓口の設置、健康運動教室の開催により、気軽に当薬局で健康相談ができることの周知、認知がなされたが、地域包括ケアシステムの一員として地域住民の健康を総合的にサポートする「健康相談薬局」となるため、門前薬局を超えた機能に関してさらなる周知が必要である。
- 健康運動教室に関しては、患者様の意向を踏まえたテーマ設定、テーマに応じた講師の招聘、関係機関との連携が必要である。
- 緊急避妊薬の提供について、提供体制は整ったがそのことの周知が不十分である。SNSや広告等による周知活動を本格化し、関係機関とも連携し患者様へのサポートに注力していく。

関連図





5 齊藤 珠美 やってみよう!「健康経営」

計画達成度 50%

事業者データ
氏名：齊藤珠美
保有資格：
保健師／看護師
健康経営エキスパートアドバイザー
産業カウンセラー
第一種衛生管理者
AFP（ファイナンシャルプランナー）
Mail：fika2017-saito.tamami@outlook.jp

事業目的 地域の中小企業における「健康経営」の普及

「健康経営」とは、「健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること」を意味しており、国の「SDGs実施指針」においても、健康経営の推進は具体的施策の1つとして取り上げられている。

本事業は、中小企業を対象としたセミナーや勉強会等の開催を通じて、以下のような「健康経営」のメリットを地域で共有していくことを目指すものである。

- 健康格差の解消
- 少子高齢化・人口減少に伴う人手不足倒産・労働災害リスクの低減
- 地元企業の生産性向上～地域活性化への期待
- 企業における新型コロナウイルス対策の適正化



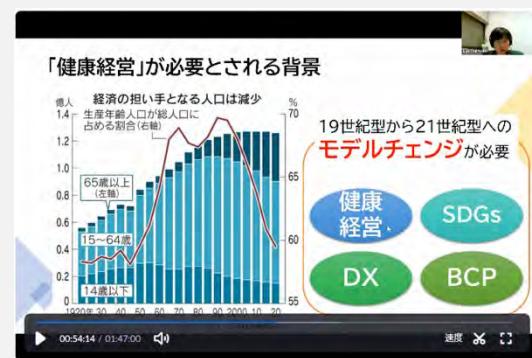
現状と目標 「健康」に関する情報はあふれていても、「健康経営」について学べる場は少ない

例えばコロナのニュースは連日あんなに流れているが、いざ職場で陽性者が確認されたときに社内で「何を・いつまで行うべきか」を正しく把握できている事業者はどれだけいるだろうか？

少子高齢化・人口減少社会 かつ コロナ禍において、経営上の健康課題について正しい知識を持ち健康経営を実践していくことは、事業者・従業員双方にとっての「持続可能な」経営のために重要と考える。

しかし、テレビや新聞・雑誌、インターネット・SNSなど、あらゆる媒体で「健康」に関する情報はあふれていても、「健康経営」について学べる場は限られており、少なくともこの沼津ではほとんど展開されてこなかったという現状がある。

そこで本事業では、セミナー開催を通じて、「健康経営」の必要性や実践に必要な準備、実践のために活用できる制度やサービス等の情報・知識を提供した上で、参加者同士の意見交換や、専門職(私)の診断・支援を受ける機会を設けることによって、「健康経営」の導入→継続のハードルを下げることを目標とした。



活動と成果 オンライン健康経営セミナー(後援:沼津市・沼津信用金庫)開催

当初の計画とは異なり、諸般の事情からセミナーは全5回の予定が2回だけの開催に、また、セミナー後の勉強会や健康経営診断の実施は断念することになってしまった。

しかし、産業戦略推進室様のおかげで、セミナーに関しては沼津市および沼津信用金庫様のご後援をいただくことができ、予想を上回る15名(企業経営者等11名+専門職4名)の方からのご応募を得られた。

12月23日に第1回、2月23日に第3(2)回を開催したが、セミナー後のアンケートでセミナー内容に関する理解度についても5段階で評価してもらったところ、第1回は9名中6名、第3(2)回は5名中3名から4点以上の高評価をいただくことができた。また、満足度については、第1回は9名中6名、第2回は5名全員から、4点以上の高評価をいただき、「次回/来年度も楽しみにしています」とのコメントもいただけたので、本セミナーは、健康経営に対して好印象を与える効果はあったのではないかと考える。さらに健康経営診断に対する印象については、5名中3名が「もっと詳しい説明を聞きたい」または「ぜひ自社で体験してみたい」と回答しており、本セミナーが健康経営診断への関心を持つきっかけとなったことも確認できた。

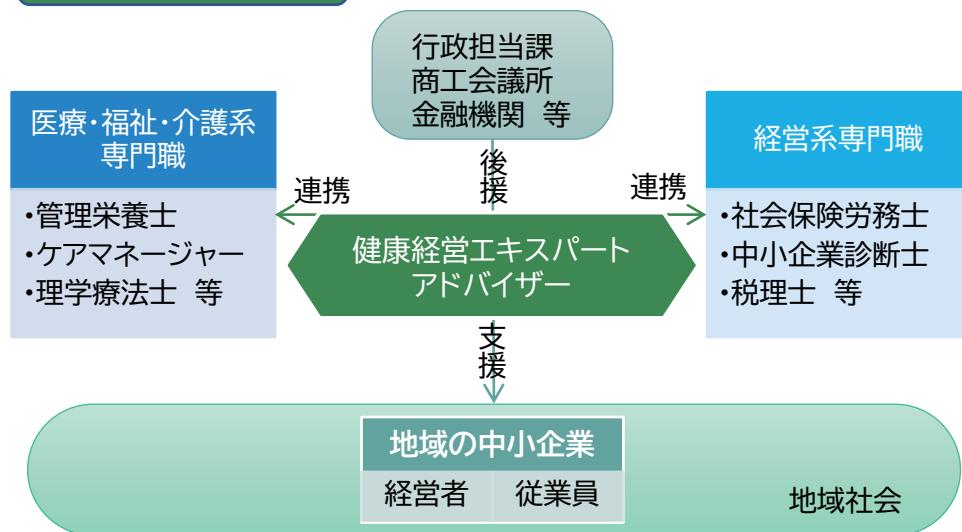


振り返り課題 事業の安定運営

R3年度は、地域自治課様や産業戦略推進室様から広報・募集について多大なお力添えをいただいたおかげで、1個人の企画にもかかわらず15名という多くの参加申込をいただくことができた。この結果は、企業側には「健康経営について知りたい」というニーズが確かにあることと、今後さらに健康経営を広めていくための、専門職同士のネットワークを築いていける可能性を示してくれたと考える。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、R2年度の全面中止に続きR3年度は規模を縮小しての開催となった上に、募集を終えた後に実父の緊急入院によりさらなる縮小(一部中止)をせざるを得なかったことが、応募者数に対する実際の参加者数の減少の大きな原因となってしまったことは否めず、本事業を展開する上での最大の課題であることを痛感している。今後は、事業の安定運営を図れるよう努力したい。

目指す相関図





障害児(医療的ケア児)ママの子育て支援 ～地域の仲間を作ろう～

計画
達成度
68%

事業目的 ・医療的ケア児のママのネットワークづくり

医療的ケア児のママ同士は、児を優先する生活を送っており、同じ地域に住んでいても出会いづらい状況にあります。ママたちの情報交換できる場所を作りだし、また医療的ケア児やその家族の支援者を地域に増やしていくための取り組みです。

※医療的ケア児とは、呼吸や栄養摂取、排泄などの際に医療機器やケアを必要とする児をいう。新生児医療の進展の背景から命を救うことができるケースが増えています。人工呼吸器や胃ろうなどの医療的ケアを日常的に必要としながら、在宅で生活している児は近年増加傾向にあります(表1参照)。

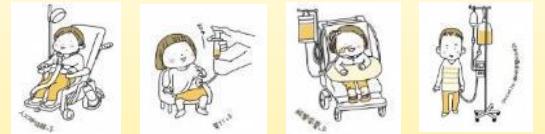


表1

現状と目標 ・コロナ禍や児の状態変化から外出しづらい時はオンラインを活用する

- 7月…LINEグループ立ち上げ。医療ケアグッズや福祉サービスなどの情報交換開始。
メンバーは紹介などで8名増え10名となる。またスタッフも2名増え5名となる。
- 9月…リアルママ会の会場候補サンウェルぬまづふれあい交流室へ交渉開始。
社協の事務職員やふれあい交流室の保育士と情報交換を行い利用許可をもらう。
- 10月…第1回リアルママ会開催。
- 11月…静岡県難病ネットワークセンターとアスルクラロ沼津より選手交流と公式試合へ招待。
- 12月…レター通信を発行。沼津市立病院の小児科を中心とした部署に配布。
- 3月…福祉サービスを盛り込んだ団体チラシが完成。



リアルとオンラインのハイブリッド交流

活動と成果 ・仲間が増え、活動拠点をみつけることができた

- リアルママ会やオンライン交流、活動通信の発行、Instagramからの発信ができた。
- スポーツ観戦をメンバーで経験することができ、家族で楽しめることを発掘できた。
- 団体チラシの中に掲載する専門職の内容を一緒に考えてもらったことで、活動の理解も得られ、チラシを活用してもらっている。
- 近隣の看護大学がボランティアとして名乗り出てくれた。



サンウェルぬまづ
リアルママ会



サッカー選手と交流



活動通信



Instagram開設



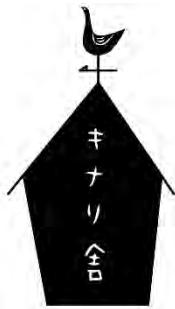
団体チラシ作成

振り返り課題 ・不定期でも交流の場作りは続けていく

・児の状態の変化で予定が立てづらく、多くのメンバーで集まることは難しいとわかった。しかし、顔を合わせた交流の場はママたちの楽しみとなり、リアルとオンラインを使い分けるハイブリッド交流を不定期でも設けていく必要がある。

・2021年9月18日「医療的ケア児支援法」が施行となり、医療的ケア児の過ごす環境も徐々に整っていくと思われる。そのためには、障がい児を地域で児を支える「支援の輪」の職種同士の交流の場があってもよいのではと考える。安心して交流できる日が来たら当事者だけでなく、支援者の交流も企画していきたい。





7 キナリ舎

大岡団地再生プロジェクト

法人データー
 合同会社キナリ舎
 代表者:西島由紀子
 構成人数4名
 活動歴2年
 主な活動地:伝馬公園及び大岡団地
<https://www.instagram.com/kinarisha/>
 Mail:kinarisha.y@gmail.com

計画
 達成度
60%

事業目的 【大岡団地活性化】

このまま放置し続ければ、空き家が増え治安の悪化が懸念される大岡団地の空き家の減少と住民の若年層の増加を目標に様々な世代が安心して暮らす団地、エリアとすることを目指す。若年層の住民が増加する事で団地に活気生まれる

【①定期マルシェの開催】これまで分譲型の団地を知らなかった世代に団地を知ってもらう若年層の住まいへの思考転換

【②空き店舗を利用したコミュニティスペースの創出】買い物の不便の解消と独居高齢者のコミュニティ構築や子育て世代の親子の交流の場とする

【③空き家のリノベーション・家守業】幅広い方に団地内を見て住む事をイメージするきっかけの場作り

現状と目標 【団地住民の関係人口の増加とアサイチの定着化】

【①定期マルシェの開催】団地住民の来場増加、ダンチアサイチの定着化および売上増

【②空き店舗を利用したコミュニティスペースの創出】空き店舗の交渉が難化。ハードに拘らずソフト面で住民の場づくりを進めていく

【③空き家のリノベーション・家守業】団地に興味を持った方に積極的な内見や視察を実施。2022年度には実際に移住者や市内移動で若い世代の増加が見込めている。



活動と成果 【関係人口の増加、団地の空き家に東京からの移住決定】

当初想定していたより、活動として大きな効果を生んでいると考えております。

コロナ禍の中、活動が限られることもありましたができることをやってきた結果、多くの方に大岡団地を知ってもらうきっかけを作れました。

活動を続けてきた事で、東京から移住してきた新婚夫婦が団地の空き家に住む事になり、現在大家業家守業に挑戦しております。

実際に活動が評価され、沼津市まちづくり政策課による沼津の暮らしラボにおいても地域プレイヤーとして話をさせていただきました。

活動を知った皆さまの応援やサポートにより、沼津信用金庫さまをはじめとした「企業」、東京都市大学や大岡中学校など「学校」、「自治会」、「住民」そして「行政」の連携した地域作りへ繋がっていると感じております。

▼活動実績

団地ごはんプロジェクト(2020年5月2日、14日に開催)

オオオカダンチマルシェ(2020年8月から2021年7月までに8回開催)

ダンチアサイチ(2021年12月より2022年7月までに6回開催)



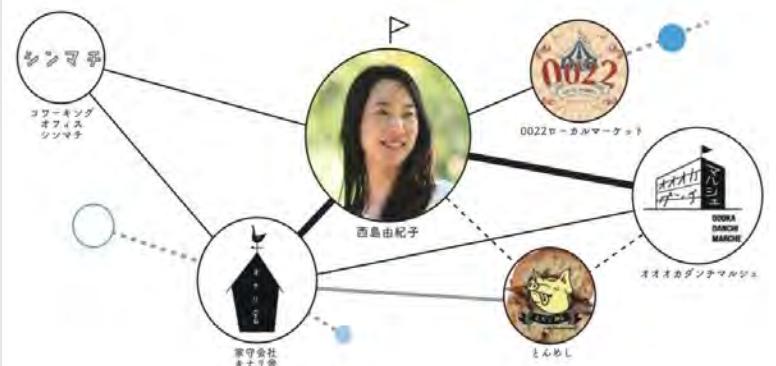
振り返り課題 【人々の“暮らす”に寄り添う】

これまでの活動により関係人口が増加し、周囲の方々から移住希望者に対して「団地いいよ」といった声をかけてもらい、実際に移住にも繋がりました。また団地内での交流もこれまで以上に活発になっており、ようやく効果が生まれ始めたなど実感しています。

またキナリ舎は法人化し、合同会社キナリ舎となりました。

運営開始された「シェアオフィスシンマチ」では移住してきた方のコミュニティ作りや、新聞社と協働している転職フェアなども含め「住む」「働く」「繋がる」といった「暮らす」に寄り添ったサービスを団地・企業・行政と連携し行いたいと考えます。

相関図





8 沼津の歴史と文化を耕す会

史跡の案内看板の整備

計画達成度
100%

団体・法人データ
代表者：世古真一
構成人数3名
活動歴2年
主な活動地：山王前地区

事業目的 沼津市の文化財の整備

沼津市の文化財の整備をきっかけとして、自治会、地域住民、地権者、文化財センター等とのつながりを深め、その情報を市民に広報誌、発信することを目的として地域コミュニティを形成していく活動。初年度の活動目的は平作地蔵尊の史跡案内看板と石碑の改修と花壇の整備。初年度は平作地蔵尊の由来を現代の地域住民と観光客に適切に伝えることを目的として、看板・花壇・石碑の清掃などの整備により慰霊と地域住民のオアシス的な場所としつつメディアを通して市民への情報発信をする。

現状と目標 看板の老朽化 住民の高齢化による伝承難の克服

【問題点】

- ・ 旧東海道を歩く見物客が数多く訪れているにもかかわらず、看板が老朽化して字が読みにくくなっている。
- ・ 十数年前までは山王前自治会の活動として、保存会や慰霊祭などが運営されていたが、住民の高齢化により、数年前から諸々の理由により有志だけの活動となってしまい、伝承がなかなかできなくなってきた。

【活動目標】

- ・ 整備と文面を工夫することによって、適切な歴史と文化の伝達に寄与したい。
- ・ 若年層への地域の歴史と文化を途絶えさせないきっかけとしたい。
- ・ 看板の制作についてはQRコードの活用なども検討し看板を見ながら、ウェブサイトと連動した情報を見られるようにしたい。
- ・ 東京の歌舞伎座とのつながりを模索したい。平作地蔵が舞台となる歌舞伎の演目「沼津」は地元の人にもあまり知られていない演目であるが、そのようなつながりを知らせることで地域住民の誇りとして啓蒙したい。

活動と成果 活動の成果は100%達成

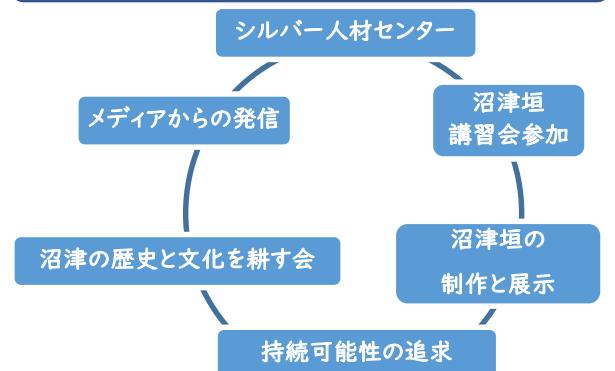
- ☆ 史跡歴史と文化の地域住民と観光客に対しての新たな提案 → QRコード付きの看板を提案し、歌舞伎の舞台や歌舞伎演目の詳細（伊賀越道中双六）のウェブサイトスマホですぐにみられるようにできた。
- ☆ 地域につながりを持たせる → 地域住民に興味をもたせることができ、新看板の設置はもちろんのこと、花壇での芋掘り会の実施などで、地域住民との繋がりや明治史料館、文化財センターとの関係もできたため今後も他の文化財との意識を持ってもらうための活動の基盤が構築できた。
- ☆ 地域住民のための環境整備 → 石碑の洗浄は環境整備として効果があった。



振り返り課題 沼津垣の文化との融合

平作地蔵の看板の地紋に沼津垣を採用したが、将来的には平作地蔵尊から沼津垣の文化を発信していきたい。そのために、シルバー人材センターが毎年主催している、沼津垣の制作講習会に参加しそこで制作した沼津垣を展示できるようにしたい。沼津垣は持続可能性を持った文化である。合わせて地蔵尊に放置されている64年前の杉の木でできた電柱を再利用し通行人の憩いの場としてのベンチの制作も視野に入れている。

沼津垣の文化発信





事業目的 食のプロセスに関わる様々な体験をすることで「食」の背景を知る

市内の農地が減り、農業を体験したことがない子どもが多い中、野菜を苗から収穫まで育てることで、鳥や虫などの天敵や予想外の気象災害等、自然の中で野菜を育てる難しさを経験する機会はとても貴重な体験である。

旬の野菜や郷土の気候に合った野菜の知識を深めたりすることで、農業や地産地消への関心や生産者への感謝の気持ちを育む。また、収穫直後の新鮮な食材を使用した調理実習で五感を刺激し、情緒豊かな子どもの成長に寄与する。さらに、子育て世代とシニア世代と一緒に事業に関わることで、地域が活性化し、市民の健康への意識が高まることが期待できる。

様々な体験を通し、食事をするときにただ単に食べ物を食べるということだけでなく、その食べ物の背景を感じながら、感謝の気持ちや食べ物を大切にするという「食」への意識を子どものときから育むことができる。

現状と目標 野菜栽培について新たな学びがあった

- ・生産者と参加者（消費者）をつなぎ、地産地消を推進する。
- ・感染リスクの少ない野外での作業で体を動かし、野菜を育てる楽しさを感じることができる。
- ・SNSを通し、大人数で集まることなく参加者同士の交流ができる。
- ・評価の指標として、事業開始時と終了時にアンケート調査を実施する。



活動と成果 参加者全員が感動！

①農業体験

- 4月：土壌分析・土壌作り・農業体験参加者募集開始
- 5月：農業体験夏野菜チーム夏野菜の植え付け（参加家族9組）
植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認、グループLINE相談対応
- 5～8月：圃場管理、害虫駆除対策補助
- 8月：土壌分析・土壌作り・農業体験参加者募集開始
- 9月：農業体験夏野菜チーム冬野菜の植え付け（参加家族18組）
植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認、グループLINE相談対応
- 9～12月：圃場管理、害虫駆除対策補助

②収穫体験

- 6～10月：野菜の収穫状況に合わせて随時SNS等で参加者募集
- 開催日：6/1・6/8・6/13・6/19・7/10・7/11・7/31・8/1・10/16（全10回）
- 参加人数：42名（15家族）

③クッキング講座

- 6～12月：SNS等で参加者を募集し、収穫可能な野菜を使用し随時開催
- 開催日：6/29・7/2・8/30・9/19・9/20・9/23・9/25・9/26・10/2・10/4・10/10・10/18・11/15・11/23・12/4・12/5（全21回） 参加人数：53名（25組）



5月の夏野菜チーム定植後すぐに強風で苗が折れたり、枯れてしまい、再度苗を植え替えた参加者もいた。暑くなり伸びた葉が虫に食べられたり、鳥につつかれたり、また油断すると圃場は雑草だらけになってしまい、除草や水やりに参加者は熱心に通って来ていた。収穫期は猛暑が続き、8月圃場の終了時期は雨天続きで、それぞれの圃場の片付けは大変だった。参加者は、予想以上に野菜栽培が大変でうんざりされ、継続を希望されることはないだろうとスタッフは予想していたが、参加者全員が冬野菜の継続を希望したため、新規の参加者9組を含め、圃場の区画を18に増やし、9月に冬野菜チームをスタートした。定植後高温が続いたことにより、アブラムシが大発生し、発芽した種や定植した苗が食べられてしまい、種蒔きや定植をやり直ししなければならなかったり、害虫駆除に苦労したが、野菜の成長も早く、10月初旬には収穫が始まった。追肥や収穫のタイミングが難しいとの声があり、スタッフが圃場の見回りをしてその都度参加者へLINEを通し声掛けをした。同じ野菜でも圃場の場所により収穫時期や収穫量の違いがあった。

グループLINEでは、栽培中の剪定法や目かきの時期などの質問が投稿され、その都度対処法を紹介した。収穫期には参加者の野菜を収穫する楽しさや、収穫仕立ての美味しさに感動する声や、子どもが苦手だった野菜を食べられるようになったり、食卓で収穫した野菜を囲み家族の会話が弾む様子が次々とアップされた。コロナ禍で旅行やイベントが制限される中、畑仕事で無心になって体を動かすことができ嬉しいという声や、参加者が圃場へ通って来ることを楽しみにしている様子を見ることができ、スタッフの励みにもなった。収穫だけの農業体験でもじゅうぶん楽しむことができるが、種蒔きや定植をした野菜を育て、収穫して家族で味わうことに、参加者全員が感動している様子を見ることができ、この事業の意義を感じた。

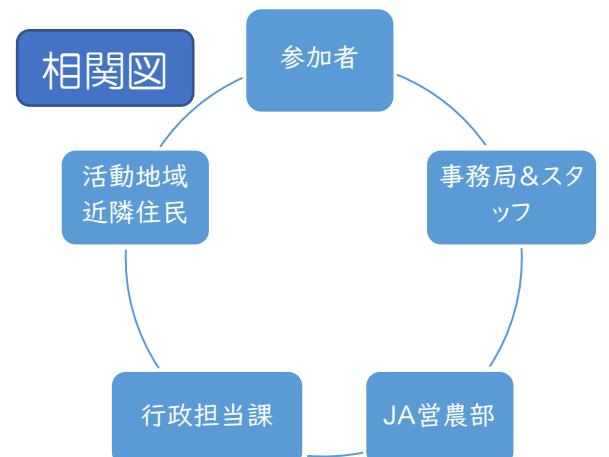
振り返り課題 2022レンタル農園として継続

実際に圃場で野菜栽培をし、収穫できたことを、予想以上に参加者が感動し、子どもたちの嬉しそうな声や、笑顔を見ることができた。

コロナの感染状況に影響されることなく、野外での事業開催は可能であることを実感でき、農業体験は大成功だったと思う。

収穫体験とクッキング講座は、夏野菜は順調だったが、秋以降は昨年に比べ自家農場での野菜栽培が上手いかず、予想以上に収穫野菜の種類が少なかつたため、予定より開催回数が減ってしまい今後の課題となった。

補助金事業は終了したが、これまでの実績を活かし2022年もレンタル農園として事業を継続している。もっと多くの市民に周知したいが、市のHP内での募集はできず、まちづくりファンドのFacebookはフォロワーが少なく周知に繋がらないのがとても残念に思う。





10 特定非営利活動法人樹木いきいきプロジェクト にぎわい創出に貢献するイソギク植栽 の試験的事業

法人データー
特定非営利活動法人樹木いきいき
プロジェクト
代表者：喜多智靖
構成人数18名
活動歴9年
主な活動地：門池公園など
HP：<http://jumoku-ikiiki.org/>
Mail：info@jumoku-ikiiki.org

計画
達成度
80%

事業目的 イソギクを植えて、雑草を抑え、街の景観アップ!

地域住民・団体と連携しながら、自生するイソギクの植栽を通して11～12月の開花期に見物客を呼びこむため、イソギクのもつ雑草抑制効果により、雑草対策にかかる人力・予算を軽減し、見物客増加への取り組みに振り向けるため、試験的に小面積でイソギクを植栽し、イソギクを知ってもらうイベントを開催しながら、植栽についての実験・検証を行う。

現状と目標 身近にスゴイ植物があるのに、どこでもやはり雑草で困っています

沼津の海岸に普通に生えている在来植物であるイソギクの大きな特性として、雑草抑制効果が挙げられます。1つは、密生することにより、地表面への日光の到達を遮断することにより雑草の生育を抑制する。もう1つは、根から分泌するアレロパシー物質（生長阻害物質）により、他の雑草の種が発芽することを抑制する発芽阻害作用を発揮し、雑草を抑制します。しかし、そんなすごい植物が身近にあるのに、街はいたるところ、雑草で困っています。



活動と成果 イソギクというすごい植物をまず知ってもらう!

- 今年度も新型コロナ感染拡大の影響により、地域の方を巻きこむような植栽イベント等はすべて中止しました。
- 残念ながら、沼津城北高校敷地内へのイソギク植栽活動も取りやめとなりました。
- 小規模ながら、イソギク解説講座を5回実施しました。
- 門池公園で行っているイソギクの植栽・補植・お世話を、沼津特別支援学校 愛鷹分校の生徒さんで行いました。
- 前年度の課題としていた、2019年度のこの活動初年に植栽したイソギクの生育が良くない状況について、イソギクが唯一苦手とする水が溜まる対策として、別工法を採用して、再植栽を実施しました。経過は至って良好です。



振り返り課題 イソギクを知ってもらえたか?

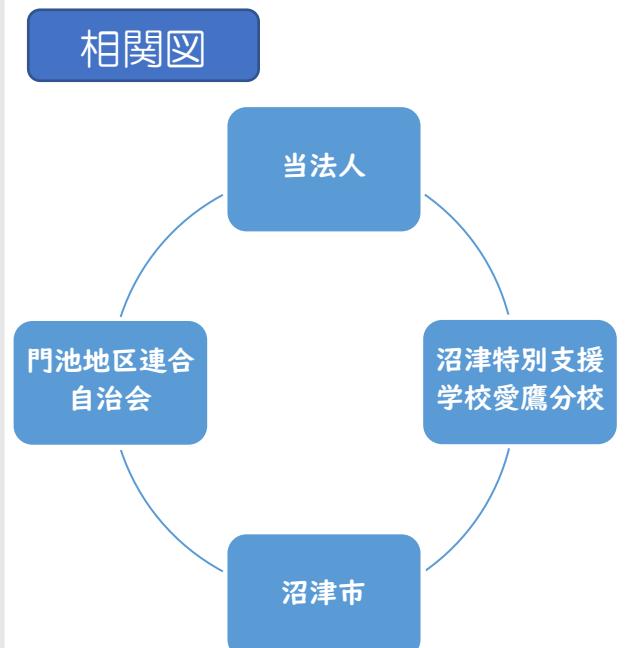
2022年1月に、沼津特別支援学校愛鷹分校で活動に参加してもらった生徒にイソギクについてのアンケートを実施しました。

イソギクの活動以前に認知度は80%弱と若干上昇傾向でした。また、イソギクに対する見た目の印象は、葉の状態、開花状態ともにほぼ100%の方より「悪くない」という評価を受け、緑化植物として十分機能していることが確認できました。

今年度、2019年イソギク植栽エリアへの再植栽を行い、水が溜まる場所での対処方法についても一定のノウハウを得ることが出来ました。

現在、富士市内では岳南電車沿線を中心に植栽エリアが拡大していますし、宮城県東松島市の海岸公園への大規模な植栽についても検討が始まっています。なかなか進まない沼津市内での活動をどのように門池公園の外で拡大させていくかが課題となります。

関連図





障害者のしごとを考える母の会

『母たちのスキルアップ支援』とスキルの活用

代表者 沼田潤
 構成人数 20名
 活動歴 6年
 主な活動地 沼津市内
 HP <https://kokoronomama.wixsite.com/iroin-art>
 MAIL kokoronomama.art@gmail.com

計画達成度 75%



事業目的

- 親子が前向きになれるコミュニティと環境づくり**
障害に対する理解が広がる場をつくり、自ら社会活動に参画できるようになる
- 障害を抱える子どもたちの将来の「しごと」や「居場所」づくり**
やりがいや誰かに必要とされる喜びを感じられ、個々に応じた自立に向かえる

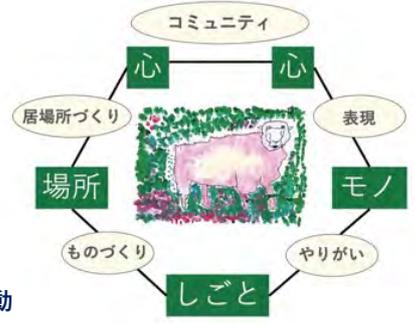
現状と目標

社会背景や課題

- 障害を抱える子どもが増える一方で、個々に合った居場所（施設・就労先等）が少ない
- 保護者は学校を卒業した後の子どもたちの人生に不安を感じている
- ひとりで悩みを抱えている保護者も多く、閉鎖的な環境が見受けられる
- 障害を抱える子どもの子育て環境は、周囲の理解や支援の体制によって大きく変わる
- 必要な支援や得意な事は何だろうかと様々な方に関心を持ってもらうことが大切

課題解決のための目標

- 気持ちが楽になるコミュニティをつくる
- 障害理解が広がる場をつくる
- 親子が安心できる環境づくりをする
- スキルアップと働く支援をする



活動と成果

役割と環境づくり チームで子どもたちと楽しみながら活動

- ① 創作活動 子どもたちとの創作活動・創作意欲に繋がる場づくりができた
- ② デザイン講座 表現披露の機会をつくり、仕事に繋がるサポートを学ぶことができた
- ③ スキルアップ研修 事業所の見学やセミナーを実施し、情報を共有することができた
- ④ 地域交流 アートイベントなどを通じ、地域の方との交流ができた
- ⑤ お仕事体験 得意なことを見つけたり、ルールやマナーを学ぶ機会になった
- ⑥ ジョブコーチ 現状や支援環境を整える講演を実施し、参加者に興味を持っていただいた
- ⑦ 心のままアート展 オンライン展示とリアル展示(6ヶ所)ができ、作品披露の場を持てた



振り返り課題

障害を抱える子どもたちの将来の仕事と居場所づくりを目的とした団体を2017年に立ち上げてからこれまで、わが子が地域の中で自立した生活（それぞれの自立度で）を送れるようにと願い、コミュニティを構築しながら事業を進めてきました。2022年度のまちづくりファンド事業は、母子のコミュニティとしての位置づけが強い「障害者のしごとを考える母の会」から、障害を抱える子どもたちの将来の働く場所としての「カフェと工房ぼくの色」にまちづくりファンドの事業主体を移し、地域の方々の「生活に直接的に役立つ将来の仕事」として、**折り畳み式ゴミかご**の事業化に取り組みます。地域に必要とされ、地域の役に立つ、個々の特性・能力に合った新たな仕事を母たちが見出して形にし、子どもたちの社会的自立を裏方として支えていきたいと思ひます。



計画達成度
100%

団体・法人データ
代表者: 佐藤智明
構成人数17名
活動歴5年
主な活動地: DHARMA沼津
HP: en-art-numazu.com
Mail: artnetworken@gmail.com

事業目的

地域の美術のハブとなり様々な美術と出会える発信地となる

美術でつながり、集い、語り、切磋琢磨し、人を育て、自らも成長する、それが私たちENの役割です。私たちの表現が、何を生み出し、何をもたらすのかをみんなで考え、共に行動することで、地域の美術のハブとなり、様々な美術と出会える発信地となることを目指します。

現状と目標

美術大学を卒業しても創作活動を続けられない人たち

静岡県東部地域に限っても、美術大学を卒業した多くの人たちがいる。しかし、学生時代は目的意識を持って共に学び切磋琢磨する仲間や指導してくれる先生がいて、刺激を受けることで活動してきたが、卒業後はモチベーションを上げることができず創作活動を続けられない人たちがいる。その様な人たちも巻き込み、組織として動くことで注目される存在となる。

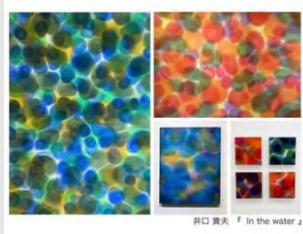


活動と成果

コロナ禍においてもより積極的な活動を展開



EN@iP 佐藤智明・松根大樹



EN@iP 井口貴夫



EN@iP 井口貴夫



EN@iP 菅沼靖幸



EN@iP 松島誠



nakiによる仮想展示



菅沼靖幸個展



位置のエクササイズ



位置のエクササイズ



市場町アートフェス



発達段階における表現活動の意義

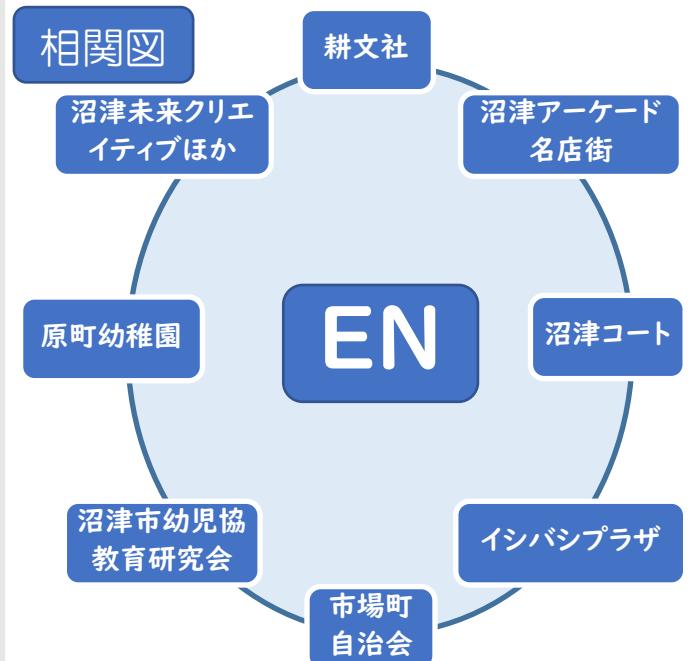
振り返り課題

ファンの拡大および若手の育成

これまでの活動をはじめ、ららぽーと、イシバシプラザと大型商業施設で展示によって、沼津の美術の組織として認知され、アートフェスへの新たな出品者が出てきている。一方で、若手のメンバーがなかなか増えていないので、若年層へのアプローチが課題となっている。

【今後の予定】

- naki.展(仮称)会期:8月13日~28日
- 第3回 市場町アートフェス 会期:3月4日~26日
- 市場町アートフェス大賞受賞者展「望月章司個展」会期:10月1日~31日
- 斎藤千明・佐藤智明展示(仮称)会期11月13日~12月4日



13 NPO法人 IBA未来塾

荒廃農地を活用して野菜づくりで 浮島・原地域活性化活動

計画達成度
99.2%

団体・法人データ
代表者:松田啓資
構成人数 18名
活動歴 15年
主な活動地:沼津市西添町
HP:なし
Mail:ibamirai@gmail.com

事業目的 荒廃農地を活用して野菜づくりで地域を元気にする

1. 荒廃地の活性化は地域の活用の手本
2. 野菜作りは家族連れや障害者との共生になる
3. 高齢者の生き甲斐の場
4. 西洋野菜の開発、南駿農協と連携
5. 次世代の農業従事者育成

現状と目標 共生社会を実感するには野菜づくり

共生社会を実感するには野菜づくりが適しています、これまでの実績から視覚障害の県立高校市立高尾園、松風荘、NPOティンクルなど多数受け入れてきました。放課後クラブの子供たちも参加しました。地域交流は青空のもとで行うと効果がすぐ現れます、地区センターの補完の一助にもなります。人口減少に伴いお祭りも減ってきていますがお祭り同様の役目も果たします。但し障害者との共生は普段からの交流と周囲の理解と参加者の理解が前提になります。事前の打ち合わせは勿論のことスタッフ施設の担当者とのコミュニケに十分な時間をかけることが必要です

活動と成果 荒廃農地の継続開拓 ①野菜栽培体験②収穫体験③料理体験④婚活イベント

本年度は7/3に高橋川と沼川が氾濫して、当農園も3日間水が引かず、夏野菜が全滅しました。その中で昨年できなかった料理教室が開催できたことはよかったです。又、ジャガイモ・秋冬野菜・婚活兼ほうれん草の収穫祭が開催できたこともよかったです。サツマイモ掘りに児童養護施設や障害者施設の方々にご参加いただき大喜びされたことは活動のし甲斐がありました。地域にも名前が浸透し始めていることが、集客人数が320名から506名に増えていることでわかります。



振り返り課題 体制を充実させ沼津西部の交流拠点を目指す

- 現在スタッフは17名となり、強化できましたが、さらに増員して、体制を充実していきます。
- 野菜作り40名、受け入れ可能なので継続して活動します。
- 沼川の恩恵を受けていますので桜並木だけでなく沼川の活性化も進めていきます。
- 果樹園の開設も検討していますので沼津西部の交流拠点を目指します。
- 東西南北のロケーションは沼津で一番ですから笑顔のあふれる地域を目指します。

これからの活動予定:

イノシシ・鹿など害獣対策 / 土壌改良 / 活性化と改良の機械の導入 / 駐車場不足解消 / 資材置場や農業消耗品の置場小屋の設置 / トイレの設置 / ポンプ改良 / イベント用テント4基 (雨や夏対策等避難場所)

関連図



事業目的

市が取り組むスポーツを活用したまちづくりを後押しするための土台作り

スポーツに特化したメディアを立ち上げ、イベント、試合結果、活動団体、使える施設、縁の選手、有望な選手(中学生・高校生を中心に)などの情報を発信することで、市のスポーツ推進基本計画でも掲げられている「する・みる・ささる」人や機会を増やし、スポーツが日常に溶け込んだまちにしていきます。

沼津市内のスポーツ関連情報を集約できることから、スポーツ団体同士や市民とスポーツ団体のマッチング、イベント企画開催などの取組みも展開できるよう準備を進めていきます。将来的には、市内で活動しているスポーツ、団体の魅力が多くの市民に認知され、競技者を支え、応援する企業や個人を増やし、競技をする環境が整い、沼津市出身のトップアスリートのUターンを促進し「沼津から世界へ」を目指します。

現状と目標

2021年8月1日サイトOPEN！毎日記事更新中(7月31日現在 月間2万3千PV)

2021年8月に本格稼働後、毎日記事投稿を続けることで、徐々に多くの方に認知されるようになり、目標としていたPV数(月間1万PV)はクリアすることが出来ました。

さらに、ぬまスポの閲覧数をあげるためには、取材に伺って生の声を記事にする取材記事を多く投稿する必要があると感じています。それには、記事を書いてくれるライターの確保が必須です。今年度中に月間PV数5万を目標にし、新規ライターを確保して、ぬまスポの認知度をあげていきたいです。



活動と成果

様々な団体と接点を持ち、沼津のスポーツを盛り上げるための土台が出来た

スポーツ大会や教室の情報を発信をすることで、市民の参加を促し、健康増進に貢献できました。(ウェブサイトがない小学生のバドミントンクラブをぬまスポで紹介し生徒数が増えたなど) また、様々なスポーツ団体(学校やチーム、スポーツジムなど)に取材し、関係を築いていることを沼津市スポーツ協会に評価していただき、今年度、沼津市スポーツ協会の公式サイトをぬまスポで委託されることになりました。



振り返り課題

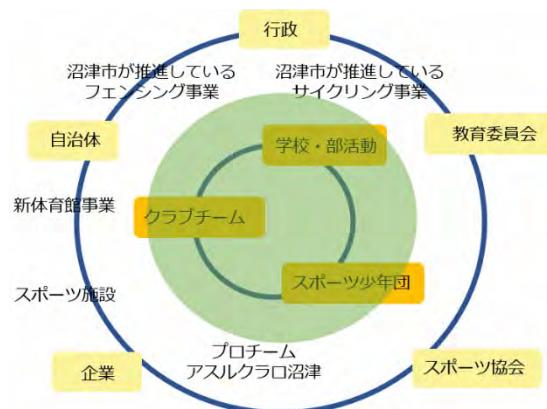
スポーツ関連団体との更なる連携と企業を巻き込む仕組みづくり

今後は沼津市スポーツ協会所属の団体と連携をとりながら、沼津のスポーツの発展のため、ぬまスポのさらなる認知度を高めていきます。そのためには、やはりライター(スタッフ)の増員が必須です。今後は企業とのタイアップ記事やコラボレーションしたスポーツイベントなどを開催し、収益化を図っていきます。

また、ぬまスポ主催のイベントやセミナーなどを開催し、様々な団体がリアルで交流出来る機会を創っていきます。それぞれの課題や中学校の部活動問題などを様々な立場の人と共有することで解決への糸口が見つかると思います。より多くの人々がスポーツを楽しめる環境を整えていきます。

相関図

子ども達のスポーツ環境を周りの関係団体がサポート出来る仕組みを【ぬまスポ】が創っていきます。



移住者や移住予定者のための 沼津暮らし応援プロジェクト!!

計画
達成度
75%

団体データー
沼津未来クリエイティブ
代表者:原 清人
構成人数15名
活動歴3年3ヶ月
主な活動地:沼津市内
インスタ:[numazugurashi_yell_project](https://www.instagram.com/numazugurashi_yell_project)
Mail numazugarashi@gmail.com

事業目的 沼津に好意をもってもらい、移住の決断につながるようなきっかけとなる

沼津に移り住んでまもない人に対しては不安や寂しさを少しでも取り除き、1日も早く地域に馴染んでもらうことを目指す。沼津に移り住もうと考えている人に対しては、沼津という街に興味や好意を持ってもらい、移住の決断につながるようなきっかけとなることを目指す。

現状と目標 移住後のメンタルフォローと移住者の「つながる」をサポート

行政としての取り組みでは、沼津移住を促進するべく移住のための相談やガイドブック・イベント情報・不動産紹介・補助金活用など、移住考えている人々に対しての積極的アピールがほとんどである。反面、移住後の人々に対してのメンタル的なフォローまではできず、なおざりとなっている。この部分を課題と捉え、沼津に移住してきて間もない人たちがもつ不安・寂しさ・孤独感などに寄り添い、沼津での暮らしが少しでも心豊かに送れるような活動や手段を考えていきたい。



ヒアリングの様子

活動と成果 ぬまづで暮らすヒントになる本「沼住」を作成

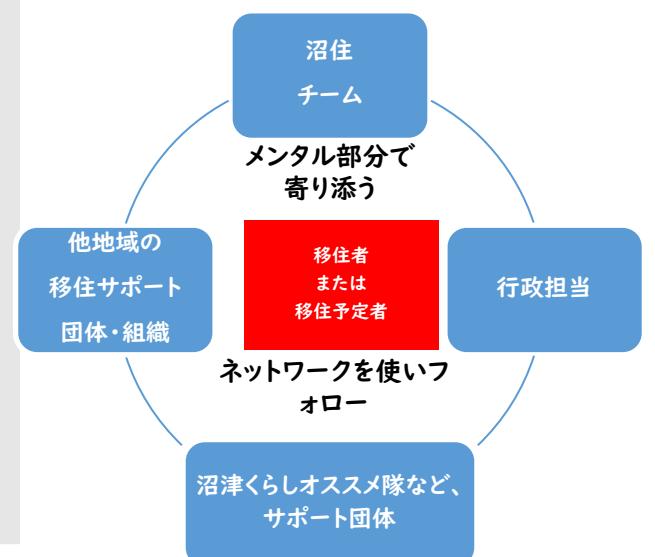
沼津に移住してきた人たちにヒアリングを実施。このヒアリングをもとに、架空のキャラクターを登場させ、沼津という新しい土地で地元民や自然とふれあいながらも感じた驚きや喜びを体験していく4つのケーススタディの物語仕立ての冊子「沼住」を1000部作成した。完成した冊子はむやみやたらに設置や手渡しをせず、必要としている人たちに渡るよう口コミ・SNS・メディア取材時に伝えるようにした。成果として、ホテルや旅館、東京にある県の移住窓口の出先機関から、「沼住」を置きたいとの話をいただいたり、民間レベルでの県東部の市町の移住サポートネットワーク作りの構想が立ち上がるまでとなった。



振り返り課題 寄り添い方法の模索と「沼住」第二弾の制作

沼津を移住先として選び、自ら移住してきた人たちは、ある程度覚悟を持ってこの街に「馴染もう」「つながろう」と行動しているが、一方で結婚を機に、仕事の都合で、家族の事情により、など、否応なしに移住してくる人たちがいるのも事実。このような人たちに対しても、少しでも不安・寂しさ・孤独感が解消できるよう、寄り添う活動や手段を作り出していきたい。現在「沼住」を読んだ人たちからのフィードバックをいただいている最中であり、第二弾の「沼住」制作をはじめ、今後の活動の軸となるものをしっかり確立していきたい。また、移住者のためばかりでなく、移住サポートをする側とのつながりや関係性構築も進めていきたい。

移住者との関係性





16 ひととき百貨店 「人と時を紡ぐ」事業

計画
達成度
50%

団体データ
代表者:藤井さやか
構成人数:20名 活動歴1年
主な活動地:
沼津を中心とした近隣市町
Mail:
hitotoki100ten@gmail.com
HP:
<https://hitotoki100.com/>

HP



事業目的 地域社会、地域財産(人・コト・モノ)の価値向上と地域活性化

この地域に住んでいることに誇りと喜びを持ち、出会えてよかったを紡ぎあえるような地域社会、地域財産(人・コト・モノ)の価値向上及び活性化に寄与することを目的とする。

2020年度の沼津市民間支援まちづくりファンド(行動が連鎖を生むネットワーク事業)をきっかけに地域で活動しているメンバーとともに「ひととき百貨店」立ち上げた。

【出会えてよかったを紡いで暮らしに喜びをまちにわくわくを】をミッションに掲げ、これからの時代に合わせた、市民が自らの意思で選択し活躍できる「地域のプラットフォーム」をオンラインおよびリアルで作っていく。

地域に存在する「人・コト・モノ」のストーリーを大切に、そこから「トキ(体験や場)」を作り出し、出会えてよかったを紡ぐような人と人の掛け算から起きる地域の可能性・価値を見つけ、未来に繋げる行動と発信をしていく。

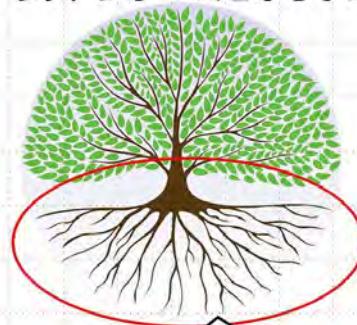
現状と目標 地域の人繋がるプラットフォームとなる事業を目指す

本事業の実施、SNSでの積極的な発信(現在Instagramのフォロワー約1300人)、および多方面への営業活動により、地域の生産者、企業、民間団体、個人など多くの方に知っていただき、共感、応援していただくことができた。資金面だけでなく、マンパワーの提供や、口コミで活動を紹介など、様々な形で応援していただいている。

体験やモノを買う人や地元の生産者だけでなく、地域貢献に寄与する企業からも「ひととき百貨店」が実施する事業に対する反応は大きく、注目度は高いと感じる。

引き続き、地域の人繋がる、関わる人が「出会えてよかった」と言い合える、行動の連鎖が起きるプラットフォームとなるための活動を広げていく。

地域の人繋がる プラットフォームとなる事業



活動と成果 体験や交流を通して地域価値を学ぶ講座や繋がる会を実施

「楽しそう!」からはじまる沼津の宝(人・コト・モノ)を学び知り、人と人、人と時を繋げる事業として、年間10回の事業を実施。

<地域の宝(人・コト・モノ)のストーリーを知る体験>

- 5月21日:中村屋麴店のひしおを使ったひしお麴仕込み
- 6月1日:大中寺の歴史と敷地内での梅の収穫体験
- 6月2日:大中寺で収穫した梅で梅シロップづくり教室
- 9月24日:醤油麴を使用した発酵ジャンの仕込みと展開レシピレッスン(オンライン開催)
- 10月9日:沼津の農家さんからさつまいもについて学び、4種類の芋を収穫
- 11月10日:収穫したてのキウイで酵素シロップを作るワークショップ

参加者の声:生産者に直接会って話ができることは、とても貴重な体験だった。

この地域の魅力や価値を新たに発見することができた。

<生産者を囲む会(ゲストスピーカーを招き、地域で活動する皆さんと繋がる会)>

- 4月17日:滝尻わさび園の浅田恵子さん
- 5月3日:日本初のオーガニックワイン専門店「酒の矢田」の矢田匠さん
- 4月29日:沼津で活動するイラストレーター ヘレンさん
- 7月11日:農福連携事業を行っている「虹のかけはし」鈴木涼太さん

参加者の声:沼津で活動する様々な方たちと交流し繋がることができ、有益な情報交換ができた。

今後の自分の地域活動への意欲を更に向上させることができた。



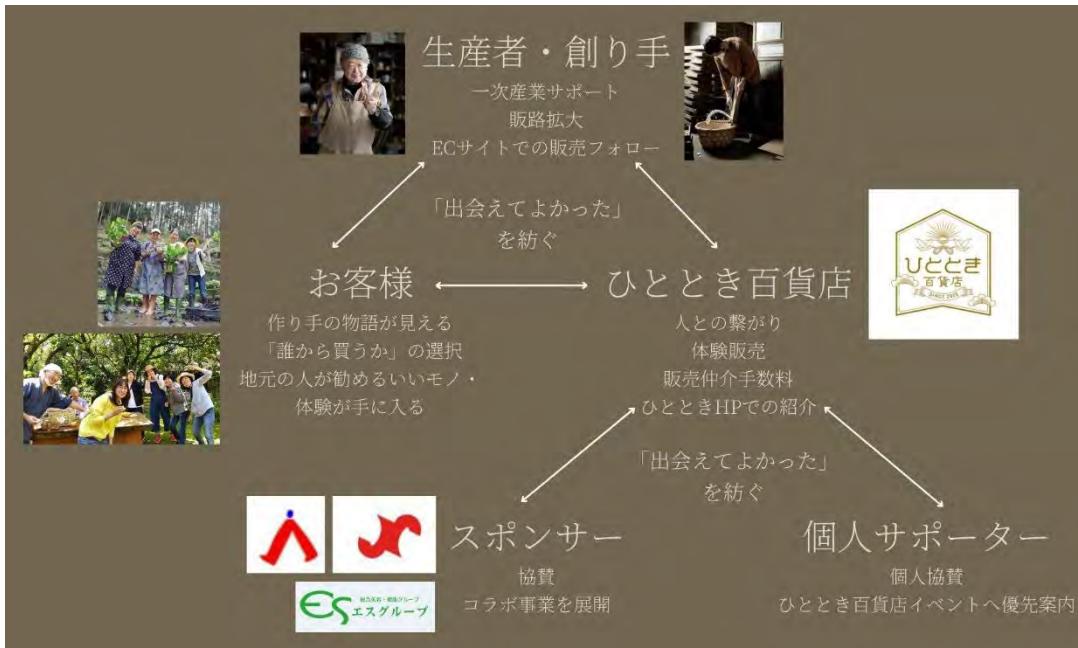
振返り課題 ファンを募り収益化を目指す

資金の確保が一番の課題である。地域貢献を目的として「ひととき百貨店」の事業に共感し協賛して下さる企業を更に募りながら、地域財産をアピールした収益事業や「場」の運営から参加費収入を得たり、会費収入を得る仕組みを作りながら自立に向けた活動を継続していく。

引き続き、地域の可能性や価値を未来につなげる対話の場を作り、この地域に住んでいることに誇りと喜びを持ち、出会えてよかったを紡ぎあえるような地域社会、地域財産(人・コト・モノ)の価値向上及び活性化に寄与していく。また、地域の人繋がるプラットフォームとなる事業を目指していく。

Instagram
・Instagramのフォロワー:
4月時点 278人 → 現在 約1300人

・協賛の獲得:
沼津信用金庫、商工会議所、
セキスイハイム東海、藤田建設、エス. 他



17 命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会

「命のビザ」杉原千畝夫妻顕彰活動

- ・希望の集い(英文説明板除幕式・奉納演奏)
- ・講演会

計画達成度
70%

団体データー
命のビザ・杉原千畝夫妻顕彰会
代表者:松下洋一郎
構成人数15名
活動歴3年
HP:なし
Mail:soyo@beige.plala.or.jp

事業目的 国際感覚を養い、世代間交流をはかりたい

1940年7月、第2次世界大戦の前夜、ナチスドイツの迫害から逃れて来たポーランドやベラルーシの多くのユダヤ人難民が日本の「通過ビザ」を求めて、リトアニアのカウナスにあった日本領事館に集まった。対応したのが副領事の杉原千畝で、ビザ発給について本国の外務省に打診すると、返信は否定的なものだった。千畝は葛藤の末、「人命第一」とする人道の精神により職を賭してビザ発給することを決断した。この決断を支えたのが幸子夫人だった。当時、二人の間には小さな男の子3人がいた。2000余り発給されたビザにより救われた命は6000名にもおよび、後に「命のビザ」と言われるようになった。

今日でも民族迫害は世界各地で続いている。島国の日本でも政治的難民の扱いについて問題になっている。2022年2月にはロシア軍によるウクライナ進攻が始まった、ますます発揮した「人道の精神」が世界に尊敬される日本人になるためにも大切になっている。お二人の偉業を伝えて学び、幸子夫人の誕生地である沼津の誇りとしていたい。

現状と目標 杉原千畝の妻、幸子夫人が沼津出身ということを知らない

一般市民はもちろんマスコミ関係者でさえ「幸子夫人の誕生地が沼津であったことは初めて知った」という声があった。新聞や『広報ぬまづ』1月15日号で紹介されたが、お寺を訪れる人々、高校生、大学生に聞いてみると、「命のビザ」や幸子夫人の誕生地ことを聞いてみると認識されていないことが分かる。まだまだ一般市民、次代を担う世代に歴史的偉業が浸透していないというのが現状であり、顕彰活動を継続し発信し続けていくことが必要だと思う。



活動と成果 英文説明板除幕式・奉納演奏、講演会

- 11月14日(日)命のビザ 希望の集い 会場:港口公園(杉原千畝夫妻顕彰碑前)
英文説明板除幕、献花(池坊正流 土井翠亮)、献茶(表千家流 森田宗雅)、奉納演奏(山田流箏曲「松の羽衣」)箏・渡辺富鳳 三弦・渡辺鳳賀代 鼓・堅田喜代 和の文化でまとめた。

イスラエル、リトアニア両国駐在大使館と当顕彰会三者の協力のもと、英文説明板を設置しました。この共同プロジェクトにより領国との友好が深まり、新たに駐日ポーランド大使館の外交官も出席されました。

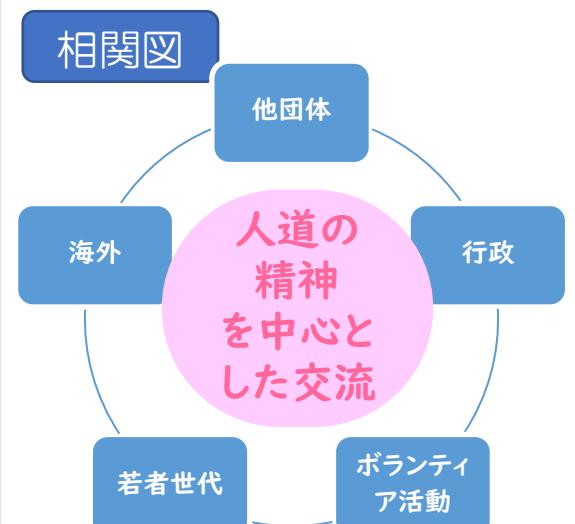
英語説明板の新設を通して、杉原夫妻の人道の精神を世代間を通して「勝縁を結ぶ」ことが出来ました。奉納演奏で、和の文化を演出することで、イスラエル、リトアニア、ポーランドと友好を深めることが出来ました。

- 11月27日(土)命のビザ 講演会 会場:沼津市民文化センター(小ホール)
会費/500円(高校生以下無料)、参加者/250名
1.川村秀氏による「モスクワでの杉原千畝さん」
2.北出明氏による「命のビザを繋いだ人々」



振り返り課題 人道の精神を受け継ぎ、世代を越えた交流をはかる

- 沼津市、NPO法人杉原千畝命のビザ、関係大使館との連携のもと、千畝の誕生地とされる八百津町(岐阜県)、千畝の学びの地、名古屋市とも提携し、点から線へと展開し、「人道の道」ルートの実現をめざしたい。また、新型コロナ収束後には、「杉原サバイバー」の子孫をはじめ海外からの観光のスポットとなることを目指したい。
- 今回希望の集いの会場で「命のビザ」を模した「命のピザ」を販売したところ完売となったことから、今後はキッチンカーなどを入れてフェスティバルの雰囲気を出し、子育て世代や若年層にも参加してもらい世代間交流を図れるイベントに発展させたい。
- 杉原夫妻の人道の精神をたて系にして、ポーランド在住の坂本龍太郎さんを通じて、ウクライナ難民、とくに子どもたちの教育支援の募金活動に取り組んでいる。NVN(日本沼津災害救援ボランティアの会)沼津国際交流協会の皆さんとも連携して今後とも活動していきたい。





18 沼津市手話言語条例推進協議会

沼津ろう乳幼児支援事業の 実施に向けた研修活動

計画達成度
100%

団体・法人データ
代表者:青木明美
構成人数 11名
活動歴 4年
主な活動地:沼津市内・オンライン
HP:なし
mail:なし

事業目的

R2,3年度の研修期間を経て、R4年度からの市の事業化を目指す

R2.4月より施行された「沼津市手話言語条例」の中の、市の施策「手話の獲得及び習得に関する支援並びに機会の拡大のための施策」を基にした事業。ろう乳幼児が手話を獲得できる場の提供。具体的には

①遊びをとおして自然に手話を獲得する場 ②大人のろう者との出会いの場 ③親子が手話で通じあえる場 ④ろう児の親同士の交流の場 を目的に展開する。

R3年度から、保健師・保育士を新たにメンバーに加え、実践面での強化を図る。絵本の選び方・伝え方、また並行して子育てに関する既存の団体とマッチングして、この事業の目的を周知し共有したいとの想いで情報を得る。

現状と目標

乳幼児の言葉や心理面での発達の専門家の確保

手話獲得支援に関する事例やスキルアップのために、先進事例である大阪府乳幼児手話獲得支援事業“こめっこ”とのネットワークを活かし、12月、メンバー6人が視察をし、ノウハウを学んだ。絵本や遊びの方法を学ぶだけでなく、乳幼児とのコミュニケーション方法、乳児であっても目を見て身振りで伝えると、身振りや表情で応えてくれる様子に感動し、このような経験を重ねることが他者とのつながりの第一歩になるとの想いを確固たるものにした。実践していきたい。

2月23日、R4年度から事業のアドバイザーをお願いしている臨床心理士で横浜国立大学の准教授に「コミュニケーションの発達支援」というテーマでオンライン講演会を開催した。理論付け出来たことは大きな収穫である。



活動と成果

研修の集大成として、11月27日にプレイベントを開催した。知人のろう者家族に参加協力をしたので、2時間の活動終了後、スタッフ・参加者交えて反省会を行い、貴重なアドバイスもあった。ろうの母の健聴の娘がろうの友だちが出来たと喜んでいて、と報告あり。そのようなつながりが大事だと改めて思う。

第二弾を2月26日に予定していたが、まん延防止等措置法の適用により断念せざるを得なかった。社会の現状は、ろう乳幼児が手話に出会う機会がなく、手話を獲得できないためにアイデンティティを持たずに成長するろう者の存在がある。ろう児にとっての母語である手話を獲得することにより思考力の発達にも良い影響が出ていることは実証されている。その信念を持ちつつ事業を進めていきたい。



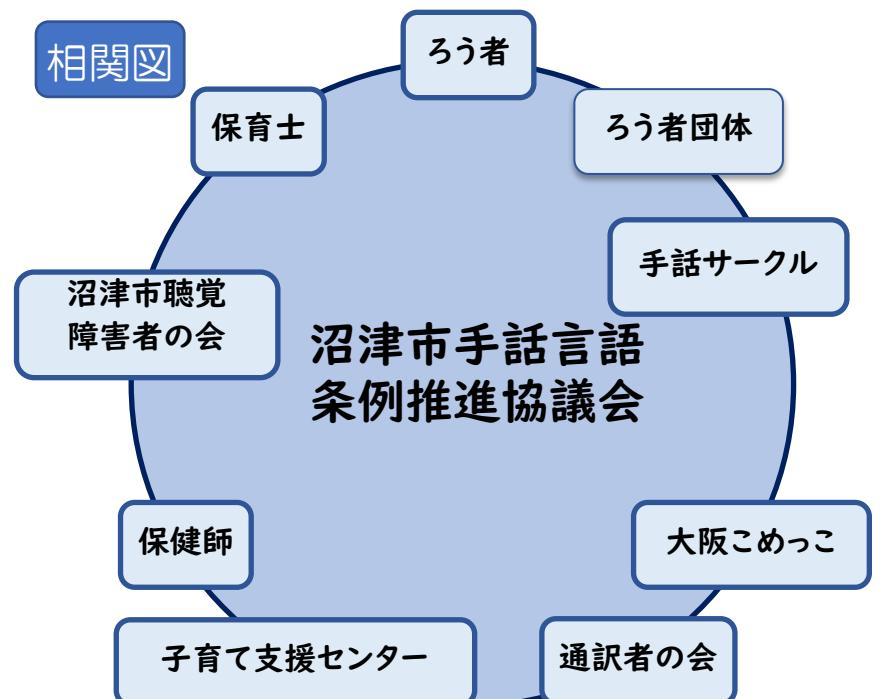
振り返り課題

研修を事業に活かして

R4年度からの事業実施場所は保健センターが適当だと考える。乳幼児の6ヶ月・1歳検診やイベントなど、乳幼児が集まりやすいことと保健師さんに理解をして欲しいとの想いである。市職員の同行で保健センターで目的や日程を相談し、R4年度の事業6回の日程が決まった。

事業の啓蒙・啓発活動のため、ろう学校、子育て支援センターの会合で説明した。また保健師さんに集ってもらい、目的説明・協力をお願いしたあと、意見交換も出来た。社会へ広めるための第一歩になった。

取り組むべき課題は多いが、メンバーで切磋琢磨して今後も多くのことを学んで共生社会に近づいていけるよう研鑽を積む。



19 青山 沙織 SHINKAI

深海魚に特化した観光交流スペース 「深海魚のテーマパーク」を戸田に!

計画達成度
50%

代表者：青山 沙織
構成人数1名
活動歴4年
主な活動地：戸田地区
HP：
<https://shinkaigyo.myshopify.com/>
Mail：
sao13ao@yahoo.co.jp

事業目的

沼津市の戸田地域は、過疎化が進んでおり、人口も減少の一途をたどっています。ですが、深海魚ブームもあり、深海魚を食べに来る観光客も増えてきました。

しかし、戸田には飲食店や宿泊施設は多いですが、観光拠点は少なく、通過地点となっているのが現実です。深海魚に特化した観光拠点を作り、戸田での滞在時間を増やす事を目的としています。沢山の人に深海魚や沼津市戸田地域について知ってもらい、「深海魚」を通じて観光交流人口を増やしていきます。

現状と目標

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、県をまたいでの移動は困難な状況にあります。

新型コロナウイルス感染拡大の状況が落ち着いた際には、すぐに受け入れることができるように、感染症対策を行った、ワークショップを企画していきます。現在は、深海魚の選別体験の実施にとどまっておりますが、今後は深海魚料理体験教室や深海魚の学びの場として活用していきます。

感染拡大が落ち着かなかつた場合に備え、ウイズコロナに沿った活動として、今後インターネット配信を活用した、深海魚のコンテンツなどの配信も検討していきます。



活動と成果

改修工事を行った拠点にて、合計7回35名の方に「深海魚の選別体験」を実施しました。栃木や埼玉など様々な場所から訪れました。深海魚についてのお話、実際に深海魚天井（の一食堂）を食べてもらい、その後、深海魚に触れながら選別体験、お土産で深海魚（観賞用）を持ち帰ってもらいました。

「深海魚がふわふわしておいしかった」や「深海魚はいろんな種類がいるんですね。」など様々な意見を頂戴しました。そのほかにも「戸田に初めて訪れましたが自然豊かで素敵なお店ですね。今日は戸田に泊ります。」と戸田に宿泊・観光していただき観光交流人口の増加につながりました。

穴子の研究をされている方がいたので、お土産に「穴子」をプレゼントしたところ、「スルガアナゴ」という貴重な深海魚であることがわかりました。（その後、研究機関に寄贈）その方がお土産で持ち帰った、ソコウオノエも貴重であり、論文の謝辞に名前を記載していただきました。



振り返り課題

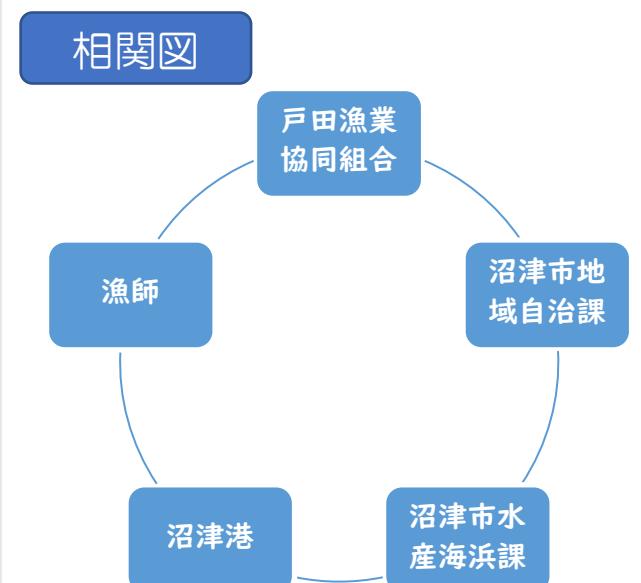
深海魚の選別体験は、匂いが出るため、匂いが出ないように氷を多くし、虫除けの設置などが必要となります。

深海魚天井は、お昼の時間は忙しいので、日程によっては予約と重なるので、時間の調整が必要になります。1日に1組で開催していましたが、感染症拡大の影響が落ち着きましたら、1日10名ほどで開催したいと思います。

行政や戸田漁業協同組合・漁師とも密に連携をとり、漁師や漁協の方に協力いただき、貴重な話などを聞ける、コンテンツを増やしていきたいと思えます。

そのほかにも、沼津港のサメバーガーを加工する際に出る、廃材を使った、深海サメレザーの開発を行っているので、その革を利用したワークショップの開講も、ネット配信または、リアル開催で行うことにより、今後より沼津港との関係性を築きたいと思えます。

相関図



20 合同会社sumica

元旅館を活用した カフェ・コワーキングスペース事業

計画達成度
40%

団体・法人データ
代表者:木村元紀
構成人数2名
活動歴3年
主な活動地:静岡県、神奈川県、福岡県など
<https://www.machi-sumica.com/>
Mai | tikiful@gmail.com

事業目的

戸田地区は、透明度の高い海や、タカアシガニをはじめとする食産物など、豊かな観光資源を有する地域ですが、一方で、少子高齢化の影響を大きく受けており、その魅力を伝承するための人材不足という課題に直面しています。この課題を解決するためには、地域外の若い世代が戸田に立ち寄り、地域の方と交流し、魅力を体感しながら事業を生み出していくというプロセスが必要です。

戸田の名産品を活用した飲食メニューを提供するカフェと地域交流スペース、テレワークができる個室を整備することで、首都圏のリモートワーカーが戸田地区へ訪れるきっかけづくりを行い、移住・定住や起業につなげていく流れを構築していきたいと考えております。

現状と目標

今後、施設が稼働していく中で、外部から戸田に訪れた人が、地域の魅力を存分に味わい、その価値を継承する担い手となるような仕組みづくりを行い、戸田地区の活性化に貢献していきたいと考えております。

<当面の見通し>

- ・都内中央区キッチンカー事業者と戸田の深海魚を活用した企画開発
- ・esports関連事業者等によるツアーでの町おこし企画開発
- ・戸田の地元事業者と連携した店舗活用



活動と成果

本事業の施設整備にあたり、当ファンド事業による補助を受け工事を実施いたしました。

施工事業者のコロナ感染や、施工後に発覚した室内の破損、及び天候不順等により、予定していた工期よりも伸びてしまったものの、工事内容の項目は無事全て終えることができました。

施設運営については住み込みの管理人が決まり、今後の施設本格稼働に向けた営業活動や関連事業者との企画を進めております。

またカフェ営業を見据えた実験として、今夏はキッチンカーでの販売を実施します。



振返り課題

工事の進捗が想定より遅くなったことで今夏の本格オープンには至らなかったものの引き続き、地元の方々や戸田を訪れる県外の方々のニーズを踏まえた事業展開をしていきたいと考えております。

2022年内は、パートナー企業のキッチンカー事業者やイベント事業者と共に、本施設を活用したテストマーケティングとしての企画を実施していくことをメインの活動内容としつつも、今後の施設本格稼働に向けた営業活動や関連事業者との企画を進めております。

相関図

